

東京家政学院短大 今井弥生 京都短大 ○田岡洋子 夙川学院短大 橘喬子 文化女大 飯塚弘
子 滋賀女短大 成田巳代子 長崎県立女短大 青木迪佳

目的 1990年代、豊かな高齢化社会の実現に向けて、老後の衣・食・住生活に関する色彩問題は従来以上に多様化し、クローズアップされると予想する。人々の生活意識や行動も、アイデンティティを重視する時代の到来とみられる。

急変する社会環境の中で、老年期の人々は社会の変化に対応して、いきいきとした生活を送るために、生活者の視点から、それぞれの色彩に、どのような意味をもつかを明らかにする必要がある。そこで主成分分析で、その要因を抽出し検討したので報告する。

方法 1) 対象 2) 調査時期 3) 場所 4) 手続 第8報、第10報同様 5) 主成分分析 (形容詞14尺度、5段階評定)、相関行列、因子負荷量、因子の解釈、意味づけフェイス・シート(1924年9月以前生まれ)

性別	老年前期	後期	職業	未既婚	世帯			住居形態	
男女	65~74	75歳以上	有無	未既	1人	夫婦	同居	一戸建て	集合
570 1170	1106	634	346 1394	73 1667	303	532	905	1431	309

結果 色彩に対するイメージ・プロフィールは好きな、こころよい、似合ったが上位群で、女性的な、美しいは性別特性が認められる。尺度間の相関は若々しいと明るい、好きなところこころよいが大である。因子負荷量の第1因子は美しい、明るい、第2因子はこころよい、似合った、第3因子は流行の、個性的な、累積寄与率47%。因子得点の位置づけ、Ⅱ軸・Ⅲ軸は、老いと若さ、個性と同調を分ける軸と考えられる。したがって、豊かな老年期の実現のために色彩感情のもつ意味を重視したい。